

「海と暮らす－恵みを、時に災害をもたらす海と私たちはどう向き合うのか」で講演し議論に参加しました(2017/05/28)

テーマ：マリンサイエンス、対話

URL：http://www.i-teams.jp/j/whats_new/2017/event/townmeeting/index.html

5月28日(日)、東北大学青葉山 commons を会場として、東北マリンサイエンス拠点形成事業(略称：TEAMS)の主催、当研究所が共催で「海と暮らす－恵みを、時に災害をもたらす海と私たちはどう向き合うのか」が開催されました。本会合は、TEAMS が取り組んできた調査・研究・開発の取り組みを社会に還元し、共有するためにどうすればいいかを、会合の参加者とワークショップ形式で考える「対話集会」として開催されました。

第一部は、3人の研究者が話題提供を行い、対話のためのインプットを行いました。木島明博教授(拠点代表、東北大学大学院農学研究科)から「東北マリンサイエンス拠点形成事業は何を目指しているのか?」、伊藤絹子教授(東北大学大学院農学研究科)から「東北マリンサイエンス形成拠点事業で何がわかったのか?何を伝えたのか?」、および当研究所の佐藤翔輔助教(情報管理・社会連携部門)から「震災の現状・復興を科学者は住民・行政にどのように伝えればいいのか?」という題目で話題提供が行われました。

第二部は、一般市民、漁業関係者、行政関係者、研究者が車座になり、当研究所からは今村文彦所長・教授(災害リスク研究部門)も、ワークショップのいちメンバーとして参加しました。ワークショップでは、第一部を受けて「よかったと思うこと/ダメだと思うこと/疑問」の感想、「研究者の立場なら?/行政の立場なら?できること」についてのアイディア出しを行い、会場全体で整理を行いました。参加者との対話を深めました。

同集会には、漁業者、民間コンサルタント、行政、研究者など約30名が集まり、議論を深めていました。



第一部の様子



ワークショップの様子
(奥中央右側：今村文彦所長・教授)



ワークショップの様子



対話集会のポスター

文責：佐藤翔輔(情報管理・社会連携部門)